

タイトル：平成30（2018）年度 教育セミナー（第14回）

日時：2018年9月13日（木）～16日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階大会議室（303）

高橋 舞子（筑波大学人文社会科学研究所 国際日本研究専攻 博士前期課程二年）

今回初めて本セミナーに参加させていただきました。私は普段、自分の研究課題が関係している狭い領域のことにばかり目を向けており、かつ中東やイスラームに関する研究を行っている方が周囲にも少ないという環境で修士論文を準備しています。そのため、先生方ならびに院生の方々の発表を理解することができるか不安な気持ちもありましたが、参加して本当に得るものが多く、結果的にはとても充実した四日間を過ごすことができました。

セミナーの中では6人の院生が発表をしました。私も発表を行おうかとは思ったのですが、準備にかけられる時間が限られており、また内容に関して精査する時間が十分でなかったため、今回は新たに設けられたポスター形式の発表をさせていただきました。同年代の方々の発表からは、領域の異なる学生に対する発表の仕方や資料の作成方法だけでなく、それぞれの調査や研究の具体的な内容やその整理の仕方など、自身の論文にも生かせるようなことを数多く学ぶことができました。

先生方のご発表は、1人あたり質疑応答を含めて2時間と、充実したとても内容の濃いものでした。今回は中東だけでなく、東南アジアや西アフリカといった地域を研究されている先生方からのお話も拝聴する機会を設けていただきました。それによって、イスラームというものが本当に世界中にあるということ、またそれを研究するということは、該当地域や所属している学問領域を超えて、より広い地域・領域に関係する出来事を扱っているのだということに再認識する機会となりました。先生方の高度な専門的知識を拝聴しながら、自分自身の勉強不足を恥じ入るとともに、今まで関心のなかった分野や地域についても勉強してみようというモチベーションの向上にもなりました。

また、セミナー中の昼食時間や情報交換会等で、院生・先生方を交えてコミュニケーションを取れたことも、非常に有意義な時間でした。ポスター発表に関するコメントをしてくださる方も少なくなく、論文に向けてどのようにまとめていけばよいのかアドバイスをいただいたり、自分には見えていなかった不足点などを指摘していただいたり、本当に良い機会となりました。改めて感謝申し上げます。

最後になりましたが、本セミナーを企画・運営してくださいました、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の先生方、ならびに千葉様をはじめとしたスタッフの皆様、4日間本当にありがとうございました。